



仁淀川町

2018.2 第50号

議会だより



旧庁舎議場で最後の議会を終えて

議員各位の思いを10ページに掲載

十二月定例会

一般質問 (大崎診療所建て替えなどで6人が質問)	2P～8P
小学生コラム “「自然のしくみ」～池川小学校の取り組み～②”	5P
コラム “鳥獣対策に思う”	7P
町長行政報告 (庁舎建設ほか)	9P
教育長行政報告 (県立高等学校再編振興計画ほか)	9P
議会だより50号の発刊にあたり (議員全員)	10P
議案の審議結果 (12月定例会)	12P
質疑のあった議案 (12月定例会)	13P
高吾北広域町村事務組合報告 (第4回定例会)	15P
議長一口メモ!	16P

高知県仁淀川町議会

TEL 0889(35)0111 / FAX (35)0575 / 発行人: 議長 西森常晴 / 編集: 議会だより特別委員会 / 印刷: (株)高知新聞総合印刷

一般質問 (12月定例会)

●大崎診療所建て替え

●地震への備え

●地域町民会議

●人口減対策

●地名の変更

●本庁舎について

●など6人の議員が17件を質問！

P 2
P 3
P 4
P 6
P 7
P 8大崎診療所の
建て替えについて検討委員会からの
提言

答

問

野村安夫議員

検討委員会を立ち上げ、数カ月経過したが、進展は。立地場所の選定及び時期など、決定事項はないのか。

答

町長

新しい診療所の地域包括医療機能や規模及び建設地について協議している。

具体的には、3回の検討会を重ね、大崎地区内に複数の候補地も選定し、多角的な検討を行っている。

今後は、1月31日に検討委員会を実施し、最終候補地確定の提言を受ける。

問

野村議員

大崎地区住民から、近くに入院する施設がなく、大地震発生時の対策として入院設備を備えてほしいとの声がある。

また、現在の大崎診療所保健センター周辺は湿気が多く日当たりが悪く、立地条件的に不適である指摘がある。構造物を良くすることで対応できないか。

答

町長

今後は、国が方針を定めている、在宅医療、在宅介護を目指すべきと考へる。地震発生時にはヘリポートの整備などに対応する。

立地場所がもし現在の診療所周辺になれば、設計の段階で検討する。

町道小郷線、寄合から坂本の進捗状況並びに計画

問

野村議員

坪井からの継続工事であるため測量しているが、工事開始時期並びに、その他の工事計画はないのか。

また、通行不能となった場合、迂回路として利用される、下土居谷合線、その延長の用居ツボイ線は、大型車が積み荷を満載にして通行可能か。

答

町長

今年度は約1千650万円

の事業費、30年2月28日までの工期、実施延長485mを施工中である。

進捗状況は起工測量並びに土質試験を行っており、掘削作業を開始するのは年明けの予定。

他の工事計画は、仮設防護柵を設置している区間で法面改良に、防災・安全社会資本整備交付金事業で、測量設計委託業務予算がつき現在業務を実施している。

計画どおり工事予算が付けば平成30年度以降着手できる予定である。

小郷線が通行不能になった場合、大型車の通行は可能である。

問

野村議員

寄合の道路周辺は、ほとんど植林で、間伐もされておらず、雑木もなく、土砂くずれや土石流が発生しやすい。

また下土居谷合線、用居ツボイ線は影地で湿気が多く、亀裂が起きやすく日常の点検・補修を。

答

町長

道路は住民の暮らし、産業振興、観光面でも重要であり、安全な通行が

確保できるよう日ごろの点検を実施する。

台風による災害に関して

問

野村議員

町道大西岩柄線の通行止めは、迂回路が長く、住民の運賃、燃料費がかさむ。早急に解除できないか。二次災害、三次災害の心配はないか。

また池川大渡地区の沈下橋(大王橋)は崩壊前の設計と同様にみえるが、強度は十分か。

答

町長

11月30日に両災害とも国の災害査定を受け、災害復旧事業が認められ、12月下旬に工事が発注できる。

被災箇所は、法面に浮石などが見受けられ、路面上の崩壊土砂や倒木を取り除いても安全に通行できる状態ではない。

工事中は下方の国道494号への落石対策として大型土嚢による仮設防護柵設置や建設機械などの常駐により通行ができない。工事完成予定は3月下旬を見込んでいる。

大王橋の橋梁災害は、応急仮工事による仮橋が11月24日完成、本工事も12月下旬発注できる見通しである。

問

野村議員

大王橋は、再び崩壊することがないよう補強工事を十分に施工された。

災害が多発すると、大型車の通行が多くなるが、国道494号、439号の接続道路の改良、富岡橋、北浦橋、岩丸線などの付け替え工事の構想はないのか。

答

町長

大王橋は、過去を検証しながら二度と同じことが起こらないよう努力する。

494号の整備については、大西工区がまもなく完成する。大西工区から土居地区に向けて、1.7kmの測量調査にかかっており、続いて、工事も進んでいく。

494号から439号の接続道路の改良は県の方にも要望しているが、ルート選定は住民合意が前提。協力をお願いしたい。



南海トラフ地震への 備えについて

答 被害想定が示され
準備を進めている

問

藤崎源彦議員

指定避難所ごとに備蓄している品目、数量は地域住民に公開すべきだが、現況はどうか。また、住民への情報伝達、複数の方法が必要ではないか。

答

町長

南海トラフ地震対策は、県から被害想定が示され、準備を進めている段階で、補助事業などを活用し迅速に対応する。非常食、水、毛布など

は、一定備蓄している。現在、県において土砂崩壊危険箇所の調査を実施中で、その結果を受けて指定避難場所の大幅な見直しを行い、避難所ごとの備蓄品整備を進める。

衛生用品や長期避難用品は、避難所運営マニュアルを作成中で、この中で検討し準備を進める。医療関係や福祉施設の薬品、備品は一定準備している。薬品は、薬局とも応援協定を結んでいる。町内建設業者の資機材については、現在、高知県道路啓開計画が検討されており、この計画で数量が把握できる。停電対応は、本庁、支所には自家発電施設がある。

情報は、防災行政無線で住民に情報伝達する。これは停電時でも24時間使用可能。また、必要に応じ、消防団及び公用車で巡回、情報を伝達する。

*高知県道路啓開計画
南海トラフ地震発生直後、早急に救援ルートを確認すること。

問

藤崎議員

災害対策の拠点となる本庁、支所から離れた山間奥地の災害弱者への備えはあるか。

答

町長

町内全域の自主防災組織は整備されているが、組織自体の運営が困難となっている集落がある。消防団と協力して活動するように要請する。また、自主防災の器具類点検も消防団に協力を求めている。

問

藤崎議員

防災リーダーの養成と地域担当職員の役割を問う。

答

町長

防災リーダーの養成は必要だ。地域担当職員については、地域の実情を知っておくのも務めで、地域懇談会などには必ず参加している。また、区長と連絡を取り合い、情報交換している。

防災訓練について

問

藤崎議員

新庁舎への移転後、町内全域対象に住民参加型の防災訓練を実施してはどうか。

答

町長

また、Jアラート訓練による作動確認も合わせて行っている。

者、消防関係者、警察関係者、高知県、周辺市町村など協力のもとで実施し、一定の成果があった。

新庁舎移転後も、さまざまな場面を想定した訓練に取り組む。

また、地域単位の自主防災組織を中心とした防災訓練も実施しており、いろいろ組み合わせながら防災意識を高めている。

答

片岡総務課長

Jアラートについては、現在、年に3回程度住民に流す訓練を実施しており、庁舎内のみ訓練も含めると頻繁に行っている。

問

藤崎議員

災害発生直後に、カメラを搭載したドローンで上空から調査すれば、早い対応ができるのではないか。

答

町長

ドローンは、活用範囲が広がっており、試験的に運用している自治体もある。しかし、導入には、研修を受けるなど準備が必要で、検討している段階である。



熊本地震の被害状況



11月5日に行われた仁淀川町防災訓練の様子

問 本町では、森林間伐関連事業や石垣トマトハウスに対する補助金制度、さらにビバ沢渡などに対する支援事業など地域活性化につながる取り組みを進め、それなりの効果が出ていると思う。

しかし、どんな事業にも、活動を進めると机上で想像できない予想外の難題や問題点が出てくる。事業主から相談を受けた際の町の考えや、スタンスを聞く。

問 片岡智準議員

町行政の継続 支援について

答 規則・要綱を適正に



答 町長

本町の補助金制度は、仁淀川町補助金交付規則で交付の条件など定め、適正な予算執行を行っている。

補助金などの交付を受けた事業者などは、経費の収支を明らかにし、事業が完了した日から5年間、書類を保存する。

事業補助は、個々に対応する必要がある。仁淀川町石垣ハウス建築事業費補助金交付要綱」など規定を設け、国などの助成制度なども活用し、実施している。

町は規則や要綱を基本に、事業者の方々に、説明や支援を行っていくが、常に制度の見直しも検討したい。



トマト・マンゴー栽培石垣ハウス

問 片岡(智)議員

支援制度を適切に活用し運営するという説明であれば、職員も現場へ来て、進捗状況を見て、アドバイスする。問題点があれば改善し、将来性があれば、若干の変更があっても、対応できる補助金制度の予算計画を立てておくべきではないか。

せっかくの事業がじり貧で終わることがないよう補助金事業も考えなければ、無駄になってしまふ。人間のやること、無駄の積み重ねが良い結果につながるのでは。

答 町長

カット工場、ビバ沢渡の事業、石垣ハウスも国、

県も見通しを立てた計画。事業者も議論を重ね将来の見通しを立てた上で申請をして採択になった事業。

本町では、毎年経過実績を検証して進めている。制度が合わないものもあると思う。工夫できるものは工夫し、国、県の事業であれば要望している。ただ相当詰めている。また県では民間の評価委員会があり、簡単に採択はない。

事業実施はその都度点検をして進めており、今後この形で進め、県、町の職員もそこに入っており、現地を見ながら取り組んでいきたい。

問 片岡(智)議員

確かに森林間伐に関しては国、県も真剣に取り組む、重機も購入し投資している。

カットハウスも設備が狭く拡張している。雇用も多くそれは認める。

しかし、個人では予算が追加で出てくることはない。個人についても進

捗状況を見、肌で感じ町長に進言するよう指導できないか。

答 町長

個人に対する追加補助金制度はない。ただ森林整備は個人への補助金制度になるが、通常は個人に対する補助金は少ない。ただ町単独制度があり、区長会などで案内し要望があれば問い合わせに対応している。

町も石垣ハウスは広めていきたい一つの例で相談があれば対応を考えており、理解されたい。

地域町民会議の 開催について

問 片岡(智)議員

本町は、合併特例債の期限も延長段階にある。庁舎も新築され雰囲気も大きく変わった。この機会に旧3町村地域で町主催の町民会議を開催し、それぞれの地域の意見を聞く機会を設け、今後の行政に生かしてはどうか。

答 町長

本町も合併して12年余りが経過、旧3町村間の交流も、祭りや行事などを通じて多くなり、一つの町としての実感が聞かれるが、旧3町村にはそれぞれの思いもあると思う。

町民の意見を聞く場として、旧町村を会場とする地区長会を毎年開催している。

この会は、地区長が地区の意見を聞き、行政に伝える場として機能し、毎年さまざまな意見が出る。

意見や要望は、精査の上、行政に反映させており、今後も毎年開催していく予定。

また、地区懇談会として、平成18年、同21年、同24年と開催。また同26年度には地区の要望で、下北川集会所、同28年度は下名野川集会所で地区懇談会を開催。

日程が合えば今後も続けたいが、行政主導で地域懇談会を開催しても一部の方に限られ、地区の要望であれば、集まりも

良く、今後は、地域懇談会、区長会で検討したい。また、仁淀地区では地域長制度があり、吾川地区にも1カ所同制度があり、同制度の導入も併せて検討する。

問 片岡(智)議員

相当の回数、各地区で開催され、町民の参加が難しい点も理解した。ただ、なぜ参加が得られなかったのか、広報不足か、テーマ設定が必要ではなかったか。

高知県知事は職種でフォーラムを開き好評を得ている。つまり、地域の方に関心を持たずテーマを持つことも大切と思うが。

答 町長

町民会議は大切と思っている。寺村地区、大崎地区でも20、30人は参加されている。いずれにしても会議手法を創意工夫したい。

地区懇談会には、私を含め三役、



仁淀川町本庁新庁舎

教育長、地域担当職員も出席し対応したい。

問 片岡(智)議員

年末の時期、どの地域でも常会が予定されている。時間が許されれば町職員が出席してはどうか。

答 町長

地区の常会は160を超え難しい。いずれにしても地区からの要望があれば非常に良い交流、意見交換ができた例があり、日程の都合がつけば地区の要望に応えたい。

小学生コラム “「自然のしくみ」～池川小学校の取り組み～②”

池川小学校5年生は、総合的な学習時間などを利用して、「山と川のつながりや自然環境」などの学習をしています。

地域で林業に関わっている方、川で鮎などを捕っている方々に先生として入っていただき、仁淀川町の山と川の勉強をしてきました。

勉強してきたことを、2月3日(土)に開かれる「第7回仁淀川シンポジウム」で発表します。その一部を紹介します。



土居川のきれいは日本一

ひ うら たい が
池川小5年 日 浦 大 河



土居川は、この仁淀川でも最もきれいとされている川である。泳いでは、気持ちよく、水がすきとおっており、アユもよくつれているというわさも知られている。

この川は、一回、ダムを作ること、町民からは、その考えに反対する声が多く上がっていた。その反対の声の多さに、ダム作りは中止となった。また、きれいな土居川にもどすため、修復作業も行われ、昔の土居川にもどったという。そして、さらにそのダム工事のとき、反対がわが、北浦橋のところに「ダム作りを中止せよ」の旗を立てていたことが分かった。どれだけ、この土居川のきれいを守りたいかが

町民の心で分かる。

この土居川は、高知の領域をこえ、観光客の人气も高まっている。そのキャンプ場も夏休みになると、観光客でうめつくされるようなキャンプ場になった。

高知県人や観光客にも愛され続けられているという土居川。川の中の川という土居川のきれいは日本一。最近では、四万十川の方がきれいだという人もいるが、ぼくは、仁淀川の中の土居川の方がきれいだと思う。

もちろん、土居川にはいろんな遊び方があるのだが、泳いでいる人の方が多い。泳ぐとしたら、気持ちすごくいいので味わってもらいたい。これからも、愛されることだろう。

洪水からも守られてきた土居川。これからもきれいであり続けてほしい。



人口減 対策について

答 就学・住宅地対策を

問

竹本文直議員

止まることのない人口減少、その対策として、大規模製材工場、フードプラン野菜カット工場に多額の補助をして、働き場の確保に努めている。しかし、若者の人口減少は止まる気配がない。この1年で185人の減少、そのうち65歳以下の働き盛り、児童生徒が128人減少。この現状をどのように把握し対策を立て、打開するのか伺う。

答

町長

人口減少の大きな要因は、就労の場が少ない、住宅地が少ない、通学に不便などの要因がある。

この原因を克服するため、大規模製材工場、フードプランなどの支援や新規就労の場、誘致に取り組んでいる。

また、公有地の売却により生産年齢世代が住宅を建築するなど成果もある。

通学に関しては、高校通学応援手当、さらに、義務教育終了まで医療費の無料化、保育料は第2子以降の減額や無料化に取り組んでいる。

最近では、高額所得者の転出傾向が見られ、マイホームを考えると、町内においても不自由を感じることなく生活できる環境を整える必要があり、インターネット高速通信網の整備に力を入れている。

今後は、就労の場を確保、子育て世代への支援を行い、住みやすい仁淀川町を目指していく。

問

竹本議員

各種の対策により移住者促進など成果は見えている。しかし、人口減少の傾向は合併後何の変化もなく、移住者がいなければもっと減っている。

町内に事務所を置くすべての事業者、協力をお願い、従業員のうち町内在住者数、町外からの通勤者の居住地など調査を提案する。

実態や問題点を把握し現状を把握、解決策のヒントがあると考える。なぜ、本町で生活できないのか、どうすれば定住につながるのか、そこを捉えないといくら職場をつくっても町外から通勤することになる。

答

町長

個人情報問題もあり慎重にしたい。いけませんが、良い提案なので検討し、考えていく。

問

竹本議員

各地の大震災で救助された方々のうち、公助、行政によって救助されたのは数パーセントだとい

答

町長

われている。ほとんどの方が家族、隣近所の協力、いわゆる、共助によって助けられている。若者が近くにいてこそ力になる。消防団も定員割れしている現状では大変なことになる。

検討ではなく早急に行うべきではないか。

答

町長

会に依頼して駆除しているが、高齢化、狩猟者の減少で、罠を仕掛けても見回り点検など管理が大変である。イノシシが罠に掛ければ自動的に知らせてくれる、鳥獣クラウドサービスの導入。このシステムを取り入れてはどうか。

答

町長

いろいろな課題があるが、今後検討する。

問

竹本議員

確かに経費は掛かるが高齢化によって、罠の見回りにかなり苦勞をしており、ぜひ導入に向けた検討を。

※
I T C
情報通信技術

鳥獣被害対策について

問

竹本議員

鳥獣被害が多く、猟友

今、役場職員の募集も苦勞をしている状態。町内の事業体を含め、提案のような動向が掴めて、結果が見えればまちづくりにつながる、課題も見えるかもしれないので前向きに考える。

※
I T Cを活用した鳥獣被害対策として、箱罠にカメラ、センサー、通信機器を設置し、無線ネットワークなどでパソコンや携帯電話に捕獲通知を行うものを、最近各自治体が導入に向けて取り組んでいる。

本町も仁淀川町鳥獣被害防止対策協議会を通じて、イノシシ用箱罠23基、くくり罠240基を配布し対策はしている。

この装置は高圧で、無線の電波状態によって、中継基地が必要。



イノシシ用箱罠

トロフィー・写真の 保管は



〔答〕 大崎地域集会所を

問 片岡政徳議員

旧吾川中学校のトロフィーや写真、表彰状などの保管、管理の件は、過去2回質問し、前教育長、現教育長も保管場所を確保、管理すると答弁したが、現在も当時のままで変わっていない。新庁舎も完成しており、既存施設の利用もできると考えるが、保管場所の確保は。

答 教育長

教育委員会が新庁舎に

移転し、後に観光協会が中央公民館に移転すれば、大崎地域集会所の一室を旧吾川中学校のトロフィーや写真、表彰状などの展示保管スペースとして活用する。

問 片岡(政)議員

大崎地区区長にも理解をいただいている。移転後の資料管理は教育委員会が行う。

池川地区には安居土居、土居甲、土居乙、竹ノ谷の飛地土居があり複雑になっている。平成27年6月定例議会で大宇土居甲を池川に変更の質問に対し、変更は可能だが、国土調査を実施中で事務処理が複雑となり調査終了時が適時と法務局から回答があり、現状では実施できない旨の答弁であった。

答 町長

国土調査は終了したが地名変更をどのように考えるか聞く。

地名変更は合併協議会の審議を尊重しているが、12年が経過し情勢などの変化や地域の要望も踏まえ考えたい。

地名の変更は、土地や建物の登記、法人の住所、運転免許証や車検証、通帳など多くの手続きが必要となり、役場の事務量も多くなる。

問 片岡(政)議員

地域住民の変更に対する意思確認のアンケートも必要となる。

町内の地名が重複した部分も考え、また合併時の申し合わせもあり、関係機関と協議し検討する。



大崎地域集会所

環境林整備事業の予算を多くし、森林整備を進め生活環境の改善を図ってはどうか。

急傾斜地域の環境林整備の手続きは。

答 町長

平成30年度も実績を踏まえ予算の対応をする。

地域環境林整備事業補助金は、家屋、公共施設から50m以内の植林、雑木の皆伐を対象とし、補助額は1a当たり3万円、上限10a、30万円で当該地区の区長が行う。

間伐の補助事業導入後5年以上経過、伐採後は広葉樹の植栽に努める。竹林伐採は1回限りとする。

急傾斜地崩壊危険区域に指定の場所は、県に対し伐採の許可申請が必要となる。

問 片岡(政)議員

県への許可や書類提出の手続きは。

答 古味池川地域振興課長

事業実施者と県の担当部署で一、二度協議が必要となる。



「鳥獣(イノシシ)対策に思う」

今年も各地域でイノシシや猿による被害を聞く。本町も地域全体を金網柵で囲むため、毎年網の配布や箱罠、くくり罠を準備している。しかし、イノシシは減少する気配がなく、捕獲量以上に出生が勝っているように感じる。

ある専門家によると箱罠罠をすれば確率は高いが経費がかさみ、現状では罠罠に頼る。

しかし、罠罠には知識や経験が必要で数を仕掛ければそれだけ多く捕獲できるわけではなく、むしろ逆効果も出ると話す。

イノシシには学習(予知)能力があり、罠の仕掛け次第では危険を察知し、罠のある場所を跳び越え、あるいは避ける習性を持っているという。

まさに人間の知識とイノシシの予知能力比べ。今後は1頭当たりの捕獲単価を上げ、捕獲される方々個々の技術研鑽に期待するほか手立てはないのか。画期的な妙策が望まれる。

片岡智準



くくり罠



大銀杏前の 棚田に道路を

〔答〕 作業道なら可能

問

若藤敏久議員

長者地区大銀杏前からヘリポートへの道路新設の陳情は、どのように扱っているのか。

答

大野仁淀地域振興課長

地すべり地域であり、正規の道路建設は困難だが、軽トラックなど作業車が通行できる道路なら可能だ。

現在、工法と事業費を中央西土木事務所越知事務所と検討中である。

早期着工完成を

問

若藤議員

キャンドルナイトと棚田で有名な絶景を維持するために、地域民は雑草の取り除きに重労働を強いられている。

地域の中心地であり、ヘリポートまでの完成が前提だが、途中までも早期の着工、完成を。

答

大野仁淀地域振興課長

実現に向けて努力する。

企業の誘致について

問

若藤議員

仁淀ブルーで有名になった仁淀川の水を商品化したい企業があると聞く。

企業誘致は全町民が待ち望んでいるが、見通しはどうか。

〔答〕 誘致に努める

答

町 長

高松に本社がある優良

企業より、仁淀ブルーのブランドを生かした飲料商品を販売したいと相談があった。

信頼できる企業で、県の補助制度も活用して、誘致に努めたい。

トッパーセールスで実現を

問

若藤議員

企業は景観と良質の水を求めていると思う。

町内数カ所でボーリング調査の結果、長者農村広場付近が最適だったと聞く。

これが事実なら経費は惜しまず、町長自身がトッパーセールスをして誘致を実現してほしい。

〔答〕 積極的に努力する

答

町 長

町内7カ所を調査の結果、長者が良いのではないかと話があった。企業側は環境面も考慮して検討されている。

水質5年連続日本一、仁淀ブルーの里でもあり、積極的に努力する。

本庁新庁舎について

問

若藤議員

新庁舎が完成したが、多くの町民から「職員も減るのに大き過ぎる、税金はもっと身近なところに使ってほしい、ぜいたくだ」と不満の声が絶えない。

町民の声に対し、納得できる説明を求める。

〔答〕 用途が限定

答

町 長

新庁舎は分散していた教育委員会と保健福祉課を集約し、災害に強く、緊急時には避難所としてのスペースも確保しており、時代の変化に対応できる設計となっている。

財源は合併特例債を活用しているが、用途が限られており、福祉事業には利用できない。

町民は何も知らない

問

若藤議員

新庁舎は、ほぼ全額を合併特例債で対応しており7割は交付税措置がある。負担分の3割は10年前から積み立てており、今後町民に負担を求めることはない。

庁舎を縮小しても合併特例債は用途が限られており、福祉関係には利用できない。

災害などの緊急時には避難所として、数百人の町民が生活できる機能を備え、非常用電源も完備している。

ということだと思うがほとんどの町民はこの事実を知らない。

今後どのような方法で周知徹底させるのか。

〔答〕 広報などで周知さす

答

町 長

職員数も急激に減少させるわけにはいかず、必要な執務スペース。多目的のトイレも設置

し、利用者に優しい設計となっている。指摘されたことは広報などを通じ周知させたい。

〔答〕 指示されている

答

片岡総務課長

池川、仁淀両総合支所と本庁舎新築工事の完成後、庁舎全体のパンフレットを作成し、全世帯に配布するように指示を受けている。

財源内訳などを説明し、配布したい。

横文字はやめて

問

若藤議員

配布するパンフレットだが、難しい横文字はやめて、理解しやすい文面で作成を。

〔答〕 分かってもらえる資料を作る

答

町 長

町民の皆さんに理解していただける資料を作成し、配布する。



平成29年12月定例会 町長行政報告

秋の叙勲、防災訓練 庁舎建設ほか

【秋の叙勲】

平成29年秋の叙勲受章者が発令され、元仁淀川町消防団分団長、岡崎定春氏が瑞光単光章を受章された。

岡崎氏は、昭和34年7月に池川消防団に入団後、部長、副分団長を歴任、合併後も仁淀川町消防団副分団長、分団長として56年の長きにわたり、その職責を全うし、多大な成果と功績を収められた。

【防災訓練】

11月5日、防災訓練を開催、医療機関関係者、消防団員、自主防災組織が参加、高吾北消防本部、高知県、佐川警察署の協力を得、実践に即した訓練が開催できた。

訓練は、震度6強の地震により、仁淀方面に甚大な被害が発生との想定で、役場職員、消防団員の参集訓練、情報収集伝達訓練、傷病者搬送訓練、災害対策本部・支部運営訓練、避難所開設訓練、土砂災害救出訓練、瓦礫救出訓練などの訓練を実施。

今回は、医療救護所運営訓練において、西村医院の関係者の皆さんに多大な協力をいただいた。訓練を通じ、多くの問題点、課題が見つかり、大災害時の対応を考える上で非常に有意義であった。今後も訓練を重ね、災害に強いまちづくりを目指していく。

【庁舎建設など】

仁淀総合支所新庁舎は、木造日本瓦葺き平屋、延床面積575・7㎡、工事

費2億2千491万円で10月末に完成した。

備品搬入終了後、11月19日に落成式典・祝賀会を行った。

本庁の新庁舎は、鉄筋コンクリート造り・一部木造・一部鉄骨造り、延床面積4千209・35㎡、工事費21億8千980万8千円で、10月末完成。

日程の都合により、11月25日に完成の神事を執り行い、落成のセレモニー、式典は12月17日に執り行う予定である。

【職員採用】

今回の職員採用は、4人の定年退職者を含め6人の退職者の補充、産休、育休の退職者の状況を考え実施した。

一般行政職3人と一般行政土木職2人に採用通知を行ったが土木職1人の辞退があった、採用の時期は、平成30年4月1日を予定している。

なお、保健師の資格試験も予定していたが応募がなく、あらためて募集し、1月28日に資格試験を予定している。



平成29年12月定例会 教育長行政報告

県立高等学校再編 振興計画ほか

教育委員会事務局の移

転は、12月末に引越しを完了、平成30年の仕事始めから新庁舎でスタート。新庁舎では、2階南側の執務スペースが事務局となる。

県立高等学校再編振興計画は、平成26年度から35年度までの10年計画で、現在は前期実施計画が進行している。

県では、31年度以降の後期実施計画策定に向け準備しており、4月には中間取りまとめの決定・公表を行う。9月に最終

取りまとめを決定した後、パブリックコメントを実施し、12月に計画を策定、31年4月までに冊子の配布・周知徹底を行う予定。

県内を5ブロックに分けた意見聴取のための地域会は、11月21日から開始しており、高吾ブロックは1月15日に四十町で行われる。

また、地域会とは別に全市町村を対象にした意見聴取も行っており、本町としては佐川高校や追手前高校吾北分校の存続について強く意見を述べた。

この2校は、平成23年の仁淀高校閉校により最も身近な高校となったことや、本町から公共交通機関を利用して通学できる高校であること、経済的に厳しい家庭にとつてはこうした通学可能な高校が絶対に必要不可欠ななどの理由を説明、存続を強く要望した。

今後も、町長と共に折に触れて県に強く要望していく。

外国語指導助手の交代について、平成28年8月

に就任したジェシカさんが、一身上の都合で10月末に退職した。後任にアメリカ・ハワイ州出身23歳の男性、アンジェロ・デイビス氏が着任し、1月から南校区を担当する。

教育委員会事務局の移転に伴う中央公民館の指定管理者の指定に関する議案は、中央公民館に事務所を置く商工会が公民館の状況に精通し、緊急時の対応が迅速にできるなどの理由から、審査会において管理者として最適であると判断した。

※パブリックコメント
行政機関が規則の制定や改廃をするとき、原案を公表し、国民の意見を求め、それを考慮して決定する制度。

議 会 だ よ り

50 号 の 発 刊 に あ た り

平成17年8月1日、3町村が合併し新生「仁淀川町」が生まれ、「議会だより創刊号（第1号）」が発刊され、このたび、節目の50号を発刊することとなりました。

議員の中には合併当初から「議会だより」の編集に携わった議員もあり、当時を振り返り感慨ひとしおの者や、この4年間で初めての者も在籍しております。

議員それぞれの思いを書き寄せました。

編集長 片岡 智準



藤村良太郎

平成17年8月1日に仁淀川町が発足、合併と同時に私は本庁の町民課に異動となった。

合併後初めて開かれた議会では合併特例で議員は36人、執行部と合わせた数は50人以上と大変な活気だった。

そのとき、議会だより第1号（創刊号）が発刊され、今回節目の第50号となった。

平成26年の議員選挙で初当選し、初めての一般質問では緊張のあまり執行部の答弁の聞き漏らしもあった。任期中も質疑や、一般質問は緊張の連続だったが、貴重な経験をする事ができた。

この議会だよりが皆さんのところに届くころには、新議員が誕生していると思うが、仁淀川町民のために頑張っていたのだきたいと願っている。



藤崎源彦

Uターンして8年目。前職は建設会社勤務の土木技術者だった。50歳を人生の節目と考え、退職し帰郷した。

帰郷した際、35年間の空白はなかったかのようになり、地元の方々が温かく迎え入れてくれ、残りの人生は、恩返しを決心した。そして、町議会議員への推薦を受け、これを恩返しの一歩と覚悟を決めた。

当初は、本町の現状をあまり知らず、手探りの状態だったが、諸先輩方からご教授いただき、議会だより編集にも携わり、4年間務めた。

本町が誕生して12年、初議会の創刊号から議会情報を伝達し、50号となる議会だよりは、町政の経過や課題を知る貴重な資料で、私にとっては教科書である。



竹本文直

合併当時7千800人いた人口も現在は5千500人ほど、高齢化率は54%に迫り、本当に人の減少を実感する。

4年前、初めて議会に席をいただき、編集委員となり、町民に議会の様子を、分かりやすく伝えられるか、私なりに考え編集に当たってきた。

行政は、情報公開が原則。今、町で何が起きているか、正確に町民にお知らせすることが大切。その役割を議会だよりが担っているが不十分。今後は、発行期間の短縮、インターネット配信など工夫を重ねていく必要がある。

本誌がお手元に届くころには私の席があるか不明だが、「議会だより50号記念誌」の編集に携われたことは記念として記憶に残る。



岡田良成

今の仁淀川町の現状を思うとき、人口の減少、少子高齢化が進んでいることは事実である。今後の対策としては、若者に定住してもらえような魅力のある生活環境作りを考えるべき。

- ・保育料の無料化、税金の軽減、住宅環境の整備（土地の無償化）

- ・小中学校については、近い将来、一校にすべきた

- ・役場の新規採用者についてはは町内に永住することが条件

思い切った対策を講ずるべきであると思う。若者に明るい希望を持てる町政を今後行うべきであり、議会だより50号の発刊にあたり、今後については議会での町民の思いを発言してまいりたい。



片岡 智準

議員に立候補を決意した時点より、久喜沈下橋からの遊歩道、町内各地への水車発電、大崎への道の駅など地域活性化や今後の仁淀川町を元気にさせ、楽しみのある仁淀川町を夢に見ていた。しかし現実には二元代表制の一方で残念ながら大きな夢はかなわなかった。ただ、4年間の経験（勉強）で得たものも大きかった。現在の法制化ではできなかった議会議員としての立場を一步進める手立て、道筋が見えてきたこと。

現体制化で取り組んできたこの準備段階が、過去に逆戻りすることがないことを新体制に望む。



野村 安夫

仁淀川町が旧池川町・吾川村、仁淀村と合併しては12年と5カ月となり、議会だよりの発刊も50号となる。

私、野村安夫も町議会議員として、住民の皆さん方のおかげで、12年余り議会だよりと共に歩み、頑張ってきた。

今後、議会だよりのご愛読とご支援をお願いしたい。

なお、これから先長く続けるために、住民の声が一番大切。ご意見などがありましたら、議会事務局、議員にご一報くださればありがたいと思う。それでは、平成30年に元気でまたお会いしましょう。



西森 久雄

地方自治法で議員定数は次のようになっていく。

①人口2千人未満の町村は12人。

②人口2千人以上5千人未満は16人。

③人口5千人以上1万人未満は22人。

仁淀川町合併後は36人が16人、12人、現在は10人となっている。

仁淀川町は一つの町ではあるが、地区からの声が届くためには、旧吾川・池川・仁淀地区で、4人・3人・3人の定数で選挙を行うようにするべきではないか。

現状では、人口の多い地区が有利となり、地区から議員がいなくなることも予想される。

町全体を考えながら地区とのパイ役になるべき議員定数を選挙管理委員会も一考を。



若藤 敏久

祖父母に甘えて育ったのが悪いのか、それとも生まれながらの性格なのか、同僚が言いづらくてもすぐ口にする。

そのせいで世間には嫌われ敵も多い。

このような私が19年も議員を続けられ、ただただ周囲と支持者の皆さんに感謝の思いでいっぱいです。

住民をも巻き込んだ平成の大合併から12年が経過し、人口は2千人減少、過疎、高齢化には歯止めがかからない。

「時代の流れ」の一言で片付けてしまうのはあまりにも無責任過ぎる。

先細りの町を、若者からお年寄りまで生活できる、住みやすい町にするにはどうすればよいのか、執行部、議員のそれぞれが責任を感じ、努力する以外に道はないと思う。



片岡 政徳

平成17年に合併、9月議会は議員数36人で仁淀川町議会が始まり、議会だよりは編集特別委員会で、創刊号が発刊された。

平成18年1月に新たに議員12人が選ばれ、議会により特別委員会と編集、発刊人は議長となり第3号が発刊されてより、今回は第50号の記念すべき議会だよりとなる。

6年間のうち、2年間は委員長で携わり、原稿の添削、写真の選別、校正と手間をかけ、「簡潔明瞭な記事が読みやすい」と研修を受け編集となった。

議会だよりは、議員活動、議場の質問、答弁を概略記事で伝え、「議会と住民（読者）」を結ぶ唯一の発刊誌である。今後とも仁淀川町議会だよりの発刊、継続を願う。



西森 常晴

光陰矢の如し。月日のたつのは早いもので、47歳で吾川村議に当選させていただいてから23年、今年古希を迎えた。

長い議員生活の中で住民の皆さんに喜んでいただけたのは、「議会だより」の発刊ででしょうか。

当時、6月の初議会が創刊号となり、「議論は土俵の上で」議会での出来事を、「ありのまま伝えていこう」を合言葉に、旧あがわ議会だよりで11年、合併してから4年間、編集に携わってきた。

「正直に書き過ぎたかな?」「否、ありのままだから」。今でも、自問自答が続く。

議会だよりは、一人でも多くの方に読んでいただく紙面づくりが、最大目標。編集者の責任は大。

議案の審議結果

平成29年第5回仁淀川町議会12月定例会議決事項

議案番号	件 名	議決結果	賛否
報告第11号	専決処分の報告について（仁淀川町本庁舎新築工事） ※外構、排水枘グレーチング仕様変更に伴い421万円増額するもの	原案報告	報告のみ
報告第12号	専決処分の報告について（仁淀川町仁淀総合支所新庁舎 建設工事） ※ハイカウンターをスチールパーテーション、柵等へ変更した ことにより367万円増額するもの	原案報告	報告のみ
報告第13号	専決処分の報告について（平成29年度仁淀川町一般会計 補正予算（第4号）） ※衆議院議員選挙執行に係る経費1,293万円を補正するもの	原案承認	全員賛成
議案第69号	仁淀ブループロジェクト基金条例について ※寄附金の使途を明確にし、寄附者の思いを実現させるため制 定するもの	原案可決	反対:竹本議員
議案第70号	仁淀川町情報公開条例の一部を改正する条例について ※目的に即した適正な請求、営利目的の利用を制限する規定を 追加するもの	原案可決	全員賛成
議案第71号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例 について ※非常勤職員の育児休業が、必要と認められる場合、子どもが2 歳になるまで再延長できるようにするもの	原案可決	全員賛成
議案第72号	仁淀川町立中央公民館の指定管理者の指定について 1. 指定管理者となる団体の名称 仁淀川町商工会 2. 指定の期間 平成30年1月1日～平成31年3月31日	原案可決	全員賛成
議案第73号	平成29年度仁淀川町一般会計補正予算(第5号)について ※1億6,120万4,000円を補正し、93億5,127万8,000円とするもの。	原案可決	全員賛成
議案第74号	高知市及び仁淀川町におけるれんけいこうち広域都市 圏形成に係る連携協約の締結について ※活力ある地域経済を維持し、住民が安心して快適な暮らしを 営むことができる圏域を形成することを目的に協約を締結す るもの。	原案可決	全員賛成
議案第75号	財産の取得について 1. 契約の目的 平成29年度仁淀川町営バス購入事業 2. 契約の方法 指名競争入札 3. 契約金額 7,932,803円 4. 契約の相手方 有限会社 鎌倉自動車 代表者 住所 吾川郡仁淀川町川口112番地1 氏 名 代表取締役 鎌倉 弘文	原案可決	全員賛成
同意第6号	農業委員会委員の任命に係る認定農業者過半数要件の 例外適用について ※農業委員会委員に占める認定農業者等又はこれに準ずる者の 割合要件の例外を適用するもの	原案同意	全員賛成

平成29年第5回仁淀川町議会12月定例会議決事項

議案番号	件 名	議決結果	賛否
同意第7号	農業委員会委員の選任について	原案同意	全員賛成
	住所 二ノ滝 氏名 藤野 格昭 (59)		
	住所 漬溜 氏名 小野 満子 (77)		
	住所 久喜 氏名 藤原太喜男 (65)		
	住所 宗津 氏名 隅田 邦子 (69)		
	住所 北川 氏名 鎌倉 正廣 (65)		
	住所 竹ノ谷 氏名 山中 忠一 (68)		
同意第7号	住所 坂本 氏名 竹村 雄幸 (70)	原案同意	全員賛成
	住所 日浦 氏名 鈴木 昭雄 (78)		
	住所 用居甲 氏名 三浦 利勝 (74)		
	住所 大屋 氏名 吉岡 郁文 (78)		
	住所 別枝 氏名 谷脇 洋輔 (77)		
	住所 高瀬 氏名 掛水 勝盛 (68)		
	住所 川渡 氏名 田村 次男 (65)		
同意第7号	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)	原案同意	全員賛成
	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)		
	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)		
	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)		
	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)		
	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)		
	住所 長者乙 氏名 竹村 好正 (65)		
発議第6号	子どものための予算を大幅に増やし、国の責任で安心できる保育の実現を求める意見書について	原案同意	全員賛成

質疑のあった議案

—第5回（12月）定例会—



○専決処分の報告

■専決処分の報告について（仁淀川町仁淀総合支所新庁舎建設工事）

機能性を重視し、ハイカウンターをスチールパーテーション及び棚に変更するもの。

問 片岡（智）議員

機能性を重視しカウンターの一部をスチール製にしたのは業者の発案か。



答 片岡仁淀総合支所長
兼住民福祉課長

トイレを使用されるときに、個人情報が見えなくなる配置となっていたため、仁淀支所から業者に依頼をし、スチールパネルを設置した。

問 片岡（智）議員

予定金額を370万円ほどオーバーして設置しただけの効果はあるのか。

答 片岡仁淀総合支所長
兼住民福祉課長

カウンター以外にも、トイレの間仕切りや、天井材の変更など増減があり、スチールパネルの増額は97万円程度。

○条例

■仁淀ブループロジェクト基金条例について

寄付金の使途を明確化し、かつ、寄付者の思いを実現させるため制定するもの。

問 竹本議員

条例の中に「寄付者の思いを実現するための事業の財源に充てるため」と書かれているが、寄付者の思いとはどのようなものか。



答 片岡総務課長

要綱を設け、「仁淀川の清流、間伐、文化財の保全に寄付をお願いします」と記載している。

問 竹本議員

条例にも明確に書き込むべきでは。

寄付者の意思とは別に使用したい意図が見えてくる。寄付者の思いを大切にするように。

答 片岡総務課長

国の措置で、ふるさと寄付金の内容が変更したとき、対応できる形を取るため要綱で周知したい。

問 片岡(智)議員

「もつとも確実、有利な方法により保管しなければならぬ」と書かれているが、国債などを購入するのか。

答 片岡総務課長

一般的には預貯金に

なってくるが、国債などの運用ができるよう条例にのせている。

○補正予算

■平成29年度仁淀川町一般会計補正予算(第5号)について

ふるさと納税件数増による返礼品等代行委託料190万円、長者小学校玄関フロアタイルの破損補修工事費100万円など補正するもの。

問 岡田議員

林業費補助金5千62万9千円の内訳と補助金の説明を。



答 古味池川地域振興課長

台風10号により、林道大渡線の山地災害の事業費50万円の補正。



答 片岡産業建設課長

林産協同組合にある原木選木機のやり替え6千520万円や、プロセッサ、ウインチ付きのグラップル2台、タワーヤーダ、ハーベストなどの購入で、国、県、町を合わせて75%の補助となっている。

問 岡田議員

事業そのものは理解できるが、林産協同組合の土場は佐川にあり、佐川町に補助金を持つていき、固定資産税が出ていく。

仁淀川町にこの施設はできなかったのか。

現在使用中の選木機の使用年数は、新しいものを購入した後は廃棄するのか。

答 片岡産業建設課長

林産協同組合の本社所在は本町となっているが、土場、事務所は佐川町にある。町内には適地、



仁淀川林産協同組合の土場 (佐川町)

広場がない。

選木機は、平成15年に導入し、すでに耐用年数12年を経過している。新しい機械が稼働するようになったら売却など考えていきたい。

問 若藤議員

林産組合の土場は、ソニアの跡地を本町が買い受けた経緯があるので仕方ないが、機械を購入するため補助金を後から後から出すことに多少抵抗がある。今後も続くのか。

答 町長

林業を盛り上げ、自立できる林産組合を目指しており、設備は国、県の補助事業を活用しながら、町も支援をしていかなければならないと考えている。

問 竹本議員

林産組合にいくら補助金を出しても固定資産税は佐川町に持つていかれる。土地を探した経緯はあるのか。

答 町長

土地は常に探している。今でも探している。所有者の問題や、地すべり、保安林の制限など適地の確保は難しい。

問 若藤議員

新たな土地を探して作業場を作るとなったらどれくらいの莫大な費用がかかるのか。それは不可能だ。

答 町長

本町に造成すると莫大な経費がかかり簡単ではない。

問 藤村議員

中山間地域等直接支払い交付金の箇所数と面積、場所は。全体で何力所か。

造林費は事業者負担が3千194万円なのか。

答 片岡産業建設課長

新規協定が下北川と崎ノ山。超急傾斜農地保全管理加算が増額となっており、9カ所。造林費の内訳は、農林業振興基金、地方創生基金、農林業振興基金に2

千902万円、地方創生基金に282万円となっている。負担金は別。

問 野村議員
中山間直接支払い交付金はいつ支払われるのか。

答 片岡産業建設課長
3月末に各協定の組合より実績を提出していただき支払いを行う。

問 西森久雄議員
10月に行われた森地区と長者地区の防災訓練で、サイレンが鳴ったら避難場所へ集合するように放送があった。サイレンは鳴らなかった。どういうことか。
長者小学校は避難場所となっているが照明設備がない。停電の際、対応できる処置を。

答 片岡仁淀総合支所長 兼住民福祉課長
放送依頼文書に手違いがあり、長者地域の方にご迷惑をお掛けした。今後は、十分注意して行う。



答 竹本教育長
子どもたちや地域のスポーツ活動に使用するため、農村広場に照明設備を設置している。
防災として設置するのであれば、防災担当と十分打ち合わせを行う必要がある。

○その他

■高知市及び仁淀川町におけるれんけいこうち広域都市圏形成に係る連携協約の締結について

問 竹本議員
仁淀川町の主張をどれだけ入れていくのか、いけるのか。



答 古味企画課長
高知市のいろいろなノウハウを利用し、仁淀川流域本部を交え、できる事業を選択し有効的な事業を行うよう協議を詰めていく。

■財産の取得について

老朽化により町民バスを2台更新するもの。

問 藤村議員
町民バスの購入について、何台購入するのか。古いバスの年数と処理方法は。不具合があつて買い替えたのか。

答 片岡総務課長
15人乗りバスを2台購入。古いバスは10年以上が経過し、20万キロを超えている。
処理については公売を考えている。

問 藤村議員
今まで、古いバスを公売にかけ購入された方はいるか。

答 片岡総務課長
今まではすべて公売している。

○人事案件

■農業委員会委員の選任について

問 野村議員
任期3年間のうちに80歳を超える方がいるが年齢制限はないのか。

答 片岡産業建設課長
公募としており年齢制限は設けていない。

高吾北広域町村事務組合報告

平成29年12月4日（第4回定例会）

一般質問

問 片岡智準議員

当事務組合施設のうち、土砂災害警戒区域イエローゾーン指定の有無と対応について聞く。

答 施設長

職員対応で削減、当施設は規模が小さく、ほかの利用はできない。

審議案件

7件

条例1件、一般会計等補正予算案件4件、売買契約、監査委員の選任各1件

全件 全員賛成 可決

答 施設長

春日荘東側、吾川荘北斜面が指定されているが、職員に対する周知徹底をはじめ、各種対策は順次進めている。

問 坂本玲子議員

（佐川町）

特老（春日荘）の現状について

答 施設長

耐震改修は31年度予定、待機者は56人、2025年ピークに人口は減少、所得税控除が受けられる障害者認定窓口は町村へされたい。

問 坂本議員

高吾北清掃センター経費節減と余熱利用は。





中津溪谷県立公園



年末年始、宿泊客満室のゆの森 (笑美寿茶屋)

議長(ロメモ)!

平成28年2月に議長に就任して2年がたちました。この間に、議会が丸となって取り組んだ事業の一つに、国道33号高規格道路整備促進の要望活動があります。現在、33号は連続雨量が250ミリを超えると、全線118kmのうち46.2kmが通行止めとなり、通勤通学をはじめ、町民の日常生活や経済活動に大きな支障をきたしています。議会は、平成28年9月議会で全会一致で要望書を議長。地元選出県議・国会議員の支援を受け、都合三度、上京し国交省に出向き陳情を続けてきました。今回の議会だよりが皆さんの手元に届くときは新しい議員が誕生したところ。新議長にしっかりとバトンを渡したいと思います。要望活動の継続を!

西森 常晴

12月		11月	
12月5日	10月8日	12月26日	11月24日
議会議員全員先進地視察研修会 (熊本県あさぎり町・益城町・鹿児島県鹿屋市)	池川地区大運動会 総務教育民生常任委員会 第58回四国地区町村議会議長会研修会 (愛媛県いよきんホール)	定例議会 正ノ石地区敬老会 池川中学校体育祭 池川小学校運動会 四国四県町村長・議長大会(高知市) 議会議長会 総務教育民生常任委員会 議会議長会 別府小学校・ふたば保育所合同運動会 長者小学校・長者保育所合同運動会	議会議員特別委員会 第20回全国農業担い手サミットinこうち(春野総合運動公園) 第13回仁淀川町健康福祉大会
12月4日	12月28日	11月1日	11月26日
高知県町村議会議長会理事会(高知市)	議会議長会研修会 池川地区大運動会 総務教育民生常任委員会 第58回四国地区町村議会議長会研修会 (愛媛県いよきんホール)	平成29年度高知県戦没者追悼式(高知市) 要望活動(高知県庁) 大川村謝肉祭(大川村) 県選出国会議員との意見交換会(高知市) 議会運営委員会 紅葉まつり(中津溪谷)	要望活動(東京都) 地方自治法施行70周年記念式典(東京都) 第61回町村議会議長会全国大会(東京都) 吾川郡議会議長会秋季視察研修(新潟県十日町市) 議会議長会 議会運営委員会

編集後記

議会だより編集委員は、平成26年1月の本町議会議員選挙で当選した、新人4人を含む5人で構成され、スタート当時は従来の形式の継続か新たな形にするか議論。多くの意見は、新聞記事形式による、見える形の議会活動を紙面に掲載、多くの町民に議会の活動、役割を知っていただくことで意見が一致。

表紙には議員を常時掲載、質問には趣旨説明、答弁の詳細、また常任・特別委員会の詳細、議員研修の結果、議員参加あるいは議員の地道な活動取材はコラム形式で紹介してきた。

4年間で合計16回発行し、この間、執行部の提案議案への質疑応答(Q&A)や賛否の数字挿入なども改善を図り、議会活動の全体、「見える議会」の表現に努め、現体制での最終発行を迎えた。広報誌としての役割の是非はともかく、長期間の愛読に感謝します。

委員長 片岡 智準
副委員長 藤村良太郎
委員 藤崎 源彦
竹本 文直
西森 久雄